

第1回目の入賞者を表彰！ 丹波アートコンペティション

3月1日、春日文化ホールで、これまで市民を対象に行われてきた「市民美術展」の裾野を広げ、全国から芸術作品を募集した「第1回丹波アートコンペティション」の表彰式が行われました。同展覧会は、「平面・立体・書・写真」の4部門で構成され、市民美術展の応募数と比較しても過去最多となる246点の応募がありました。

表彰式では、4部門それぞれの大賞受賞者が受賞の喜びなどを語り、書部門大賞の大地正康さんは「展覧会の規模が大きくなり、遠方からも出品者が増えてよかった。表現できる場がこれからもあれば嬉しい」と話しました。

展覧会を通して、今後も文化芸術活動が活発に行われることが期待されます。

■各部門の大賞・優秀賞受賞者

部門	大賞	優秀賞
平面	鈴木洋子（愛知県）	三方斌彦（加古川市）
立体	安部尚平（高砂市）	佐々裕治（愛知県）
書	大地正康（丹波市）	坂部泰子（丹波篠山市）
写真	馬場和正（三田市）	細谷昭二郎（丹波市）



表彰状を受け取る、書の部入賞者のみなさん



表彰式終了後に行われた、各部門の審査員による講評

ひょうごの農とくらしの研究活動コンクール 山本浩子さんが知事賞を受賞

2月14日、農林業の分野で先導的な活動を実施している事業者を表彰する「ひょうごの農とくらし研究活動コンクール」が行われ、氷上地域で栗の栽培や加工、産地のPRなどに取り組む山本浩子さんが最優秀の知事賞を受賞しました。

山本さんは「今後、栗の里丹波がもっと有名になれば嬉しい。栗の栽培は子育てと似ている。女性の力で農業を盛り上げていきたい」と語りました。



取り組み事例発表の後、賞状を手にした山本さん

小学校卒業記念で地域と交流 丹波竜の足跡を描こう



ペンキを塗る作業も楽しい思い出に

2月20日、上久下小学校6年生の12人が、上久下地域の丹波竜化石発見現場から元気村かみくげ駐車場への遊歩道に、地域住民と一緒に丹波竜の足型をペンキで描きました。

児童たちは「良い卒業記念になった。丹波竜の里に来た人たちに、足跡を辿って楽しんでもらいたい」と楽しく作業しました。

道の駅丹波おばあちゃんの里 重点「道の駅」に選定されました

今年度、国土交通大臣選定の重点「道の駅」に「丹波おばあちゃんの里」が選定され、3月6日、市長に選定証が手渡されました。重点「道の駅」に選ばれると、施設整備などさまざまな面で国の支援を受けることができます。

谷口市長は「令和5年を目途に施設整備などを進め、道の駅を中心とした地域活性化や観光客の増加に取り組みたい」と話しました。



重点「道の駅」に選ばれた「丹波おばあちゃんの里」

赤井（荻野）直正の実像にせまる！ 歴史対談を実施

2月24日、ハートフルかすがで、歴史研究家の村上正樹さんと山内順子さんを招き、黒井城主赤井（荻野）直正について、地域に伝わる古文書から読み解く歴史対談が行われました。

対談では直正が黒井城主になったいきさつや、戦における戦略などが紹介され、主催者の黒井城跡地域活性化委員会の吉住孝信会長は「直正の魅力を家族にも伝えてほしい」と話しました。



史料をもとにした分かりやすい解説に聞き入る観客たち

障がい者スポーツの振興に貢献 田邊安彦さんが功労賞を受賞



障がい者スポーツの魅力について語った田邊さん（左）

2月19日、丹波市の障がい者スポーツ団体「サークルふれあい」を主催する田邊安彦さんが、県障害者スポーツ協会の功労賞を受賞したことを市長に報告しました。ボッチャ大会やパラリンピアンを招いた講演会の開催など、地域の障がい者スポーツ振興への貢献の大きさが認められました。

田邊さんは「今後も学び続けて、障がい者スポーツを広めていきたい」と笑顔で話しました。

丹波市ブランドを輝かせるために 服部幸應さん講演会を開催



軽快な口調で観客に語りかける服部さん

2月22日、丹波の森公苑で服部幸應さんの講演会が行われ、約300人の観客が、料理評論家から見た丹波市産農産物の魅力や、食育の大切さなどについての講演に耳を傾けました。

服部さんは、地域の皆さんに誇りを持って産地を守ってほしいと熱弁。参加者は「ブランド農産物が売れたら生産者の苦勞が報われるようになる」と今後の農業への期待をにじませました。